

「畑地かんがいの効果と今後の展望」

講師：茨城県畑地かんがい先駆的実践者（畑かんマイスター連絡協議会会長）

染野 芳郎 氏



日時：平成22年12月9日(木) 場所：さいたま新都心合同庁舎1号館

講師紹介：染野様は、国営霞ヶ浦用水土地改良事業の水を活用した畑作振興に尽力され、畑地帯総合整備事業の茨城県下第1号地区である「安静地区」を推進してこられました。平成16年度より茨城県畑かんマイスター連絡協議会会長に就任し、茨城県の畑地かんがい推進の第一人者として、霞ヶ浦用水を利用し自ら畑地かんがい営農を実践し、普及啓発を図っておられます。

「安静地区」は、畑地帯総合整備事業により、販売金額で約2倍、所得額で1.5倍になりました。また、作物選択の幅が広がり、一年で3～4作、ほうれんそうでは5作を作付し、年間を通して出荷が可能となり、収量増、品質向上により、安定した農業経営が行われるようになり、後継者不足の問題も解消しています。

国営霞ヶ浦用水土地改良事業 畑地帯総合整備事業 安静地区の概要



茨城県八千代町の南西部に位置する台地に開けた畑作地帯で、首都圏に近く、農作物の供給地として恵まれた位置にあります。事業前は、排水路がなく、雨が降ると水がたまって水害となり、干ばつでも大被害が出る、道路は狭く、曲がりくねり、ほ場は小さく、道路に面していない畑も多い土地でした。昭和59年に県営畑地帯総合整備事業が導入され、平成13年から畑地かんがいが可能となりました。



<講演のポイント>

安静地区は数年おきの水害と干ばつに悩み、ほ場は小さく、道路は曲がりくねり、このままでは生活も出来なくなってしまうと県や町に相談し、畑総に取り組んで28年。

畑総の導入で、事業完了を待たず、安静地区は大きく変わり始めた。ほ場区画が大きくなり、大型機械が使える。畑の形が良くなって、隅から隅まで作付けでき、作業能率がアップし、農業資材の節約にもなった。農道の整備で、畑まで大型トラックで自由に出入りできるようになり、労力が軽減され、生産コストが下がった。水が使えるようになって、ハウス栽培も増えた。いろいろな面でプラスになった。

排水路と畑かんを整備したため、悔しい思いをした水害にも干ばつの被害にも遭わなくなり、計画通りに出荷できる。H16年の集中豪雨で隣の集落は秋野菜が冠水で全滅し、野菜の大暴騰が起こったが、安静地区のふところは潤った。今年の夏は秋野菜の植付時期の大干ばつで、畑かんのない地区は、植えても枯れる、枯れなくても育たないで作業が遅れたが、安静地区は好きなように作業ができ、秋になってふところにお金の方から入ってくるという状況だった。

事業の途中から生産意欲が出て来て、遊んでる畑は一枚もなく、通える範囲ならどこへでも行って借りて作るということで、後継者がいる大規模な農家で60町の人もある。売上げも億単位の人かなりいる。後継者は他の地域の何倍もいる。

これからの産地は、災害に強く、予定通りに計画出荷ができ、安心、安定して販売できるようにしなければならない。そのためには、条件整備。作物を守ることができなければ、安定した出荷はできない。また、条件整備は、生産コストを大きく下げることになる。そうしないと海外と太刀打ちできない。安全でうまくて新鮮な農産物を供給できる産地になれば、消費者に信頼される。

後継者が後を継ぎたくないような経営をしなければ、継いでもらえないのは確か。だから、経営者が頭の改革をしないと、後継者は残らない。

安静地区は、後継者を中心に、いろんな作物の栽培に取り組んでおり、実績を上げている。まだまだ、これからいくらでも伸びていくと考えている。



現在の茨城県八千代町安静地区

編集後記

昨年の夏は、8～9月にかけての猛暑と少雨で、さらにこの冬は、年末～2月上旬までの寒波と少雨で、農作物は計画的な生産がままならず、深刻な収量の減少や品質低下などを余儀なくされた産地も多かったものと思います。世界的にも異常といわれる気象により、農作物価格が高騰しています。厳しい気象条件に耐えうる基盤整備を行った農地での安定的な営農が日本の食料生産を支えています。

編集発行

関東農政局国営土地改良事業地区
営農対策委員会事務局
農村計画部資源課

〒330-9722

埼玉県さいたま市中央区新都心2-1
さいたま新都心合同庁舎2号館
TEL 048-740-0516 (ダイヤルイン)